

## ヒラド系ツツジの鉢物化に関する試験

### 第4報 挿し木時期に関する試験

吉田俊一・諸富保司 (大分県温泉熱利用花き園芸試験場)

YOSHIDA, S. and Y. MOROTOMI : Studies on the Production of the Pot Plant of Hirado-Azaleas (*R. mucronatum* G. DON).

#### 4. Effects of the Cutting Period to Rooting and the Form and Quality of the Pot Plant

ヒラド系ツツジの鉢物栽培において、挿し木時期が鉢物 (成品) の姿および品質に及ぼす影響について検討したので、その結果を報告する。

#### 1. 材料および方法

供試品種は正之進、御代の栄、聖母、豊後紅および桃源を用いた。

挿し木時期は1979年3月28日、6月22日および9月29日とした。3月と6月に挿し木したものは挿し木後91日目の6月27日と9月21日にそれぞれ発根状態の調査をし、第1回の移植を行った。9月に挿し木したものは挿し木後101日目の1月8日に発根状態の調査をし、第1回の移植を行った。

なお、挿し穂の調整は穂の長さ5cmとし葉数7~8枚とした。挿し木用土は褐色火山灰土壌 (以下赤土という) を用いた。

挿し木後はミスト室で管理し、ミスト室は冬季加温した。

いずれの挿し木時期のものも第2回の移植は1980年4月に行い、4号ポリ鉢へ植付けた。また、第3回の移植は1981年5月下旬に行い、5号ポリ鉢に植付けた。

鉢用土は當場慣行の配合土 (赤土3 : 鹿沼土3 : ピート3 : 川砂1) を用いた。

摘心回数は5回であり、枝の伸長にあわせて随時摘心した。最終摘心月日は1981年5月28日であった。最終摘心の方法は供試株を10cmの部位で水平にせん定する方法をとった。

最終摘心後の施肥は6月30日に1鉢当たり油粕4g、骨粉2g、I B化成 (10-10-10) 2g、7月30日に1鉢当たり油粕4g、骨粉4g、I B化成2g、有機化成 (8-8-8) 2gをそれぞれ置き肥えることで行った。また、秋冬期の落葉防止のため9月上旬に1鉢当たり骨粉2gを施用した。

樹形のわい化と着蕾数増加のためにB-ナイン散布を1981年7月27日と8月6日に計2回行った。B-ナイン水溶液の濃度は0.3%とし、処理は1株 (鉢) 当たり10ccの葉面散布とした。

区制は挿し木については3区制の1区20本としたが、鉢物については1区制の1区10株 (鉢) とした。

#### 2. 結果および考察

1) 挿し木時期を変えても発根に差を生じない品種 (正之進) のようなものもあることがわかった。

2) 6月挿し木は発根率の高い品種が2品種 (御代の栄、豊後紅) あり、根数もほとんどの品種で多かった。発根苗のよいものを多数得るためには6月挿しが実用的である。

3) 鉢物の姿からすると3月挿しは生育期間が長いதாக、生育おう盛であり、枝葉の繁茂に比べて着蕾枝数は増加しなかった。また、着蕾しない枝が多かった上にコンパクトでなくなった品種 (聖母) のようなものもあった。9月挿しは6月挿しと統計学的には差のない項目が多かったが、少し小型でやや貧弱であった。6月挿しは9月挿しの姿に近いものの、おおむね3月挿しと9月挿しの中間の姿であった。

4) 以上の結果から、鉢物栽培には6月挿しが適当と考えられる。

第1表 挿し木時期と発根率

挿し木時期	正之進		御代の栄		聖母		豊後紅		桃源	
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
3月28日	88.5	56.5	73.5	36.5	41.5					
6月22日	93.5	100	75.0	96.5	58.5					
9月29日	98.5	78.5	83.5	85.0	76.7					

第2表 正之進の生育・着蕾状態 (1981年10月9日調査)

挿し木時期	草丈	分枝数	葉数	最大分	着蕾枝数*	着蕾枝率 <sup>※2</sup>
	cm	(側枝数)		枝(側枝)長	(花枝数)	
3月28日	21.0 <sup>b</sup>	46.9 <sup>c</sup>	572.9 <sup>b</sup>	12.4	19.9	42.4
6月22日	18.2 <sup>a</sup>	35.6 <sup>b</sup>	456.3 <sup>a</sup>	11.4	17.8	50.0
9月29日	17.7 <sup>a</sup>	26.8 <sup>a</sup>	370.0 <sup>a</sup>	10.3	15.8	59.0
有意性	*	**	**	NS	NS	-

注) a, b, c : 同一項目中同一文字を含むものはLSD 5%水準で有意差なし。

※1 : 着蕾枝数は11月19日調査

※2 : 着蕾枝率 =  $\frac{\text{着蕾枝数}}{\text{分枝数}} \times 100$

第3表 聖母の生育の生育・着蕾状態 (1981年10月9日調査)

挿し木時期	草丈	分枝数	葉数	最大分	着蕾枝数*	着蕾枝率 <sup>※2</sup>
	cm	(側枝数)		枝(側枝)長	(花枝数)	
3月28日	30.1 <sup>b</sup>	54.4 <sup>b</sup>	840.6 <sup>b</sup>	23.5 <sup>b</sup>	36.0	60.6
6月22日	27.8 <sup>b</sup>	41.3 <sup>a</sup>	628.6 <sup>a</sup>	16.1 <sup>a</sup>	33.8	81.8
9月29日	21.7 <sup>a</sup>	35.0 <sup>a</sup>	525.9 <sup>a</sup>	14.5 <sup>a</sup>	27.0	77.1
有意性	**	**	**	**	NS	-